

平成30年度 事業所自己評価シート

実施日：平成31年3月19日(火) 11:30～13:00

参加人数：11名中、10名参加

<回収率>

児童発達支援－15名配布し、12名の回収、回収率80%でした。

放課後等デイサービス－28名へ配布し、10名の回収、回収率35%でした。

<回収率の低さの分析>

放課後等デイサービスご利用者様は長い年月をご利用して頂く事がほとんどであり、各事業所毎年似たような項目での評価表を使用していると思われ、複数の事業所を利用している方にとっては負担を感じていると思われる。改善を感じないと思われてしまっているところが、年々回収率が低下してしまっている主な原因と分析する。

評価結果を受け、改善に向け努める事は必須ではあるが、保護者が答え易いアンケートとなるよう見直しが必要と考える。

保護者評価と事業所職員評価とを照らし合わせ、ご意見の記述があった項目、評価の低い項目に沿って意見交換を行いながら、分析し、改善策について話し合った。

[環境・体制整備]

項目	意見	分析と改善策
職員の配置数や専門性に満足していますか？	(保護者) ・(コメント抜粋)役所の基準以上ではあると思うが、役所の基準そのものがそもそも少ないと感じているので、重度な子供が多い場合、職員数が少なく感じられることもある。 (職員) ・他の事業所よりは多いと伺う事はある ・今回で4回目のアンケートでこの項目の伝え方をその都度変えてきた結果、保護者よりこのようなコメントをもらった事は評価できるのでは？ ・求人をしても応募がない。放課後デイ同士で人材の引っ張り合いになっている。	・最低基準を多くすると、事業所が運営出来なくなる可能性も考えられ、制度では加算で評価してもらっていると考えている。 ・事業所としても10:2が適切な人数とは考えていないので、職員増加の努力を継続をしている。しかし、求人をしても応募がない為、人員確保は難しい状況には置かれている。応募の方法を見直す。
生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていますか？また、子供達の活動内容に合わせた空間が作られていますか？	(保護者) ・満足度が高い結果であった。 (職員) ・(コメント抜粋)肢体不自由のお子様の排泄介助スペースがトイレにない。AM中の砂場道具が置いたままになっている事や小さなゴミが落ちている事がある。 ・肢体不自由児の排泄スペースが確保できないか検討した事もあったが、様々な観点、間取り上から改善に至らなかった。	・環境を清潔に保つ、使った物を片付ける、安全配慮等は毎月の職員会議で伝え、周知は図っている。職員意識の問題。誰かがやってくれるだろう、自分の仕事ではないと言う意識が問題。事業所で起きている事は全職員の問題。1人1人が意識をしていく事が大事。お互い様、思いやりで行動出来る事のマニュアル化は避けたい。それが出来なければ、マニュアル化にする。 ・肢体不自由児の排泄スペース確保は難しい為、折り畳み式のパーテーションを購入した。

[業務改善]

項目	意見	分析
業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	(職員) ・実際、行っているが、『どちらでもない』に丸をつけた職員がいた。PDCAサイクルの意味がわからなかったのか、出来てないと思う所があるのか。コメント記載がないので、『どちらでもない』につけた意図が知りたい。	・PDCAサイクルを説明する。

事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	(職員) ・会報では行っていないが、ホームページでは掲載している。職員会議で報告はしており、会議欠席者へレジュメを配布し、会議録は回覧している。 ・平成30年度の事の公開がないと捉えたのか。今年度についてはこれからなので、過去の結果は掲載している。	・ホームページでは、情報公開はしている。保護者へは評価結果と改善案を配布し、職員へは回覧している。平成30年度もこれから行う。
第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		・外部評価はしていない。今後も予定はしていない。
職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	(職員) ・(コメント抜粋)自らの探してきた研修等に参加できるような補助があると嬉しい。	・元々あるが、再度、周知を行う。あれば、言ってほしいと伝えている。管理者が受講してもらう事が適当であると判断されれば、受講は出来る。

[適切な支援の提供]

項目	意見	分析と改善策
ガイドライン説明	・一度、父母会で説明したが、周知には至っていない。 ・ガイドライン全てを説明するのは困難。ガイドラインを噛み砕いて、保護者へ伝えるべき、知って欲しい項目で作り直す事が必要ではないか。 ・職員研修ではやっているが、全てを把握し、理解し続けるのは難しいので、時々、読み返す事が必要と思う。	・職員研修も2時間では足りない。ポイントを絞って研修内容を考える。 ・保護者説明向けのものを作る。
ガイドライン個別計画書への反映	(職員) ・(コメント抜粋)家族支援・地域支援の項目がない。保護者の方とは送迎の時や、お電話で話をしている	・必要に応じて個別支援計画に取り入れる。
障がいのない子どもと活動する機会がありましたか？	(職員) ・交流はお子様にとってメリットがある事だと思い、その機会があれば設けたい思いはあるが、実際の受け入れ体制や人員配置の都合もあり、難しいのが現状。 ・合同防災訓練、はびねす、コミュニティハウス、公園へ行き、顔の見える関係づくりや障がいのないお子様と接する機会は設けている。	・今までの交流は継続していく。

・活動プログラムが固定化されないよう工夫されていますか。 ・立案をチームで行っているか。	(職員) ・教材は固定はされている。作る時間の確保が難しい。 ・長いと12年間、児発も含むと15年間あるので、どうしても固定化してはしまう。 ・同じ遊びで遊び続けられない方が良く？決められた玩具から選ぶ所もある→自分で選択し、決定するのは将来的には大事な事だと思う。 ・放デイは学校お迎えがあるので、自由時間が長くなってしまう子はいらる。留守番職員だけの活動展開は安全面を考慮すると活動内容も決まってしまう。 ・おもちゃは多い方だと思うが…遊びが決まっているお子様だとやる事がなくなってしまうかもしれない。 ・設定保育－新聞紙なら「折ってみよう」、粘土なら「道具を使ってみよう」と目的をもたせる。設定する事で、同じ事が重なる状況は減るのでは。 ・療育センターでは、おもちゃは飽きないよう順番に出している。 ・児童のスキルの幅が広いので、活動に参加出来るようにと思うと内容が重なってしまう傾向にある。 ・少人数の集団の中で参加出来ないお子様も出てしまうので、当日のお子様の状況によっては、新しいプログラムを取り入れるが難しい事がある。	・設定、目標だてしての活動を取り入れる ・特定の職員に任せきり、頼り過ぎているところがあったので、職員が1人1つ、活動、教材づくりなど、活動プログラムを考える。 ・おもちゃは活動報告等を通し寄付を募る。
--	--	--

[保護者や関係機関との連携等]

項目	意見	分析と改善策
子どもの育ちを支える力をつけられるような支援は行われていますか？	(職員) ・お迎えサービスを児発に追加した為、来所時に保護者の方とゆっくり相談、話せる時間の確保が難しくなる。 ・ペアレントトレーニングは有効な手段ではあるが、取り組むには、指導者側にもスキルが必要で、保護者側も時間と労力を使うので、根気が必要な手法である。日々の忙しさを考えるとそれを踏まえて提案できる技術が必要だと思う。	・電話での相談支援を強化する。
障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子供の状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	(職員) ・(コメント抜粋)支援員も人員配置的に可能ならば参加できると良い。	・直接支援員も参加できる事が望ましいと思う。人員配置とふさわしい職員の参加はさせたい。
父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携は支援されていますか？	(職員) ・さくらんぼ独自のアンケートでも希望する方は少ない。保護者同士の繋がりを仲介するお手伝いはしたい。 ・過去に開催をした事もあったが、集まらなかった。最後は誰も来なくなってしまった。	・すでに繋がりがあある保護者の方々もいらっしゃるのでは、個別にお手伝いや交流の場をつくる。事業所として、その手法を解っていないので学ぶ。 ・保護者の中より代表になってもらえる方がいるか？ ・受給者証発行の為に『サポートプラン、状況確認票』の記載が求められているので、その勉強会が出来ればと思っている。
母子保健や子ども子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	(職員) ・母子保健との連携はないが、お子様の発育や発達の情報共有はしたい。学校、他事業所、相談支援事業所と必要な連携は行っている。	・必要な機関との連携は継続していく。 ・年2回参観週間を設定し、学校、行政機関へ配布している。

移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で情報共有と相互理解を図っているか		・要望があれば行っている。現在、進学時は療育センター、就職時は学校が主に担当している為、情報を求められる事がない。長期休暇期間は学校の先生が研修として訪問して下さる事もあり、相互理解に繋がっていると思う。
(地域自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	(職員) ・地域の子ども・子育て会議へは参加できていない。	・地域自立支援協議会へは参加をしている。 ・スキルアップ研修の受け入れも行っている。 ・入れてもらえる機会があれば、地域性もあるので、参加はしていきたい。
日頃から子供の状況を保護者と伝え合い、子供の発達の状況や課題について共通理解を持っているか	(職員) ・連絡帳、添乗時、個別計画作成会議、支援会議は毎月行っている。『どちらでもない』にチェックを入れた方は質問をどのように解釈したかはわからないが、発言が乏しい職員はいるので、フォローは必要ではないかと思う。	・連絡帳、添乗時、個別計画作成会議、支援会議の実施により、共通理解を継続したい。
定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	(職員) ・定期的ではないが、半年に1回の面談時、その他随時お受けしている。連絡帳に相談記載があれば、個別に対応している。他へ相談しているから必要のない方もいると思う。	・相談したくても出来ない方の見極め、個別対応は必要である。 ・相談がしやすい雰囲気づくりに努める。
障害のある子供や保護者との意思の疎通や情報伝達の為の配慮をしているか	(職員) ・連絡帳でやりとりをしている。 ・情報伝達の為の配慮はしているが、質を向上させる必要はある。	・特定の職員が考え、作成しているので、全職員で対応していく。
事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を行っているか	(職員) ・開き方は慎重に対応しなければならないと考えている。お子様の安全と保護者の安心が大事なので。 ・災害時は救助を求める立場でもあるので、地域との関係作りは必要。	・「はぴねす」と作品展を年1回行い、児童の成長を見てもらう機会は作っている。地域住民や関係機関へは招待状を配布しており、参加者もいる。

[リスク管理]

項目	意見	分析と改善策
食物アレルギーのある子供について、医師の指示書に基づく対応がされているか	(職員) ・保護者の方へ確認すると学校によって、提出している人としていない人がある。費用のかかる事もあり、強要はしにくい。	・指示書の有無は伺ってはいるが、提示がない場合には、細かく伺う。アセスメント更新時には、毎回確認している。